

古文 読解問題「土佐日記（帰京）」①

京に入りたちてうれし。家に至りて、門に入るに、月明かければ、いとよくありさま見ゆ。

聞きしよりもまして、言ふかひなくぞこぼれ破れたる。家に預けたりつる人^Aの心も、荒れたるなり^aけり。中垣こそあれ、一つ家のやうなれば、望みて預かれる^bなり。さるは、便りごとに物も絶えず得^cさせたり。今宵、「^①かかること。」と、声高にものも言はせず。いとは辛く見ゆれど、志はせ^dむとす。

さて、池めいてくぼまり、水つける所あり。ほどりに松もありき。五年六年^Bのうちに、千年や過ぎにけむ、片方はなくなりにけり。いま生ひたるぞ交じれる。おほかたの、みな荒れにたれば、「あはれ。」とぞ人々言ふ。思ひ出で^eことなく、思ひ恋しきがうちに、この家にて^②生まれし女子の、もろともに帰らねば、^③いかがは悲しき。船人もみな、子たかりてののしる。かかるうちに、なほ悲しきに堪へずして、ひそかに心知れる人と言へりける歌

生まれしも帰らぬものをわが宿に 小松^cのあるを見るが悲しさ

とぞ言へる。なほ飽かずやあら^fむ、また、かくなむ。

見し人の松^Dの千年に見ましかば 遠く悲しき別れせましや

忘れがたく、口惜しきこと多かれど、え尽くさず。とまれかうまれ、疾く破りてむ。

問一・次の「土佐日記」について説明した文の(ア)～(オ)に入る言葉を答えなさい。

「土佐日記」は(ア)時代に(イ)によって書かれた日記文学である。(ウ)文字で書かれた日本最古の日記文学で、(エ)国の受領としての任期を終え、故郷の平安京に戻るまでの約50日の旅路について書かれている。(イ)は(オ)の編者としても知られている。

問二・傍線部a～fの助動詞の意味と活用形を答えなさい。

問三・傍線部①「かかること。」とあるが、どのようなことを指しているのか答えなさい。

問四・傍線部②「生まれし女子の、」とあるがこの「の」と同じ用法で使われているものを本文中の傍線部A～Dから選びなさい。また、その役割を次の選択肢から選びなさい。

ア 主格 イ 連体格 ウ 同格 エ 体言の代用 オ 連用格(比喩)

問五・傍線部③「いかがは悲しき」とあるがどのようなことが悲しいのか答えなさい。

読解問題「土佐日記「帰京」」① 解答・解説

問一 ア平安(中期) イ 紀貫之 ウ 仮名 エ 土佐 オ 古今和歌集

問二 a. 詠嘆・終止形

：「けり」は過去・詠嘆の2つの意味がある。「けり」の過去は間接過去で他者から聞いたことを表す。今回は日記文学のため過去を表す場合は直接過去である「き」を用いる。よって、「けり」は詠嘆だと判断できる。

b. 断定・終止形

：「なり」には①伝聞・推定、②断定・存在の2つがある。伝聞・推定「なり」は終止形接続、断定・存在「なり」は体言・連体形接続。今回は上にある助動詞が完了「り」の連体形「る」のため断定と判断できる。

c. 使役・連用形

：助動詞「させ」は使役・尊敬しかないため、すぐに判断できる。今回は敬意の対象がいないため使役。下にある助動詞「たり」は連用形接続なので「させ」は連用形と判断できる。

d. 意志・終止形

：助動詞「む」は推量・意志・適當・勧誘・婉曲・仮定の6つの意味がある。今回は「むとす」で「（）しようとする」（意志の強調）を意味するため「意志」だと判断できる

e. 打消・連体形

：助動詞「ぬ」は①打消と②完了・強意のい識別をする必要がある。打消は未然形接続、完了は連用形接続のため、接続先を見て判断するが、今回は上の語が下二段かつようで同じ活用するため判別ができない。よって下の語を確認する。下には体言が続いているため、打消の「ぬ」だと判断できる。

f. 推量・連体形

：助動詞「む」は推量・意志・適當・勧誘・婉曲・仮定の6つの意味がある。「（）ずやあらむ」で打消の疑問「（）ないであるだろうか」を意味するため「推量」と判断できる

問三 家の管理がされていなかつたため荒れていてひどい有様だということ

：「かかること」で「このようなこと」という意味になり、前の内容を確認する。

問四 D

：格助詞「の」には①主格 ②連体格 ③同格 ④体言の代用 ⑤連用格(比喩)の5つの意味がある。傍線部②「生まれし女子の、」の「の」は主格なのでDが正解。他はすべて連体格。

問五 一緒に帰つて来るはずだった娘が帰つて来ないので、家に生えていた小松(若木・生命力を表す)を見る」と。